

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201070		
法人名	有限会社 福老の家		
事業所名	グループホームあんしん苑		
所在地	千葉県花見川区横戸町893-1		
自己評価作成日	平成4年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和4年1月28日(文書評価)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍による生活の変化は大きく、これまで当然にできていたことに制限を設けてずいぶん経ちます。ご入居の皆さんにとっては、感染症対策はなかなか理解が難しいので、窓越し面会の際「どうして中に入れてあげないの」というお声に、いまだスタッフはせつない思いでいます。また、感染症に対する考え方もそれぞれです。「厳しい制限を設けてコロナウイルスに感染しないように」と願うご家族、「もう面会ができてもいいのでは」とお考えのご家族といらっしゃいます。「それぞれ」という対応はできない中で、それでもできる限りの工夫をし、制限を設けなくてよかった時を皆さんが元気に迎えることができるよう、努力を続けてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人個人のこれまでの生活習慣を尊重し、画一的な対応は極力避け、自由に生活ができるホームになっていることが一番の特徴である。そのための施設長以下職員の努力は想像に難くない。自己評価の中でも、利用者のことを、「入居者、個人、ご本人、自分、その方、各自、高齢女性・・・」など、ケースバイケースで表現が違っていることが、まさに日常のサービスが理念にしたがってフレキシブルに行われていることを如実に示している。アンケートでは職員への感謝の気持ちと同時に、面会を希望する方が非常に多いが隔離面会に違和感を抱く家族も多い。針広混交の市民の森に隣接し環境に恵まれていることも利用者・家族の心の安定に資している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(○印を記入ください)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外出支援の強化がまだ不十分。買い物などにお連れできない分、散歩にお誘いしていく。	入居者の尊厳を守るために、個人、個人に応じて「選択・決定・行動」への支援をすることを目標として、日々PDCAを回すという理念が職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの会の代表の方からは今でも時折連絡をいただいている。再開を楽しみにしていると伝えていただいている。	地域のボランティアはコロナ禍でホームとの関係が疎遠にならないよう言葉がけを絶やさず励ましてくださるなど、地域から愛されるホームになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアで交流していた方からの在宅介護の相談に応じている。経過を追いながら継続中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面開催にしている。文書で書いていただくとスタッフに共有できるので励みになっている。	運営推進会議は書面で行っているが、地域包括支援センターやボランティア、家族から紙面いっぱい意見が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接対面はなくても電話等でコミュニケーションがとれている。	市の運営適正化委員会とは連携が取れている。コロナ禍では平常時以上に連絡事項や情報交換の必要性が増しているものと推察するが、いまのところ電話での対応で問題が起きていないのは幸いである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前回の外部評価以降も引き続き身体拘束はない。	身体拘束適正化委員会はホームの実情に応じ、独自の判断で開催している。ヒヤリハットなどは発生ごとに情報を共有し、PDCAをまわしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が活発に活動している。研修講師役を担うなどの活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に管理者が成年後見制度を取り扱うNPO法人に参加し、後見人活動をしている。入居希望の際、家族構成によっては後見人の設定をお願いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は丁寧に行い、契約やその後の事も含めて案内の別冊子を作製した。契約時にはできる限り複数人数での同席をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	LINEは変わらず、重要なコミュニケーションツールになっている。	訪問時や手紙、メールで家族の意見を聞いている。アンケート調査では施設長、ケアマネジャー等の手厚い対応に絶大な感謝と信頼が寄せられている。コロナ禍であり運営推進会議に寄せられた意見も参考に職員のみで開催している。	パンデミック時の面会については多くの願望や意見があるが、ホームとしても、関連部門と効果的な方法について前向きな意見交換をされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に一度行ってきた個人面談を、各職員の要望に沿って行うことにした。より密な面談の機会を希望する職員もいる。	身体拘束や虐待等について内部研修を実施している。今は運動不足などになりやすいので、健康維持のための支援について話し合いの機会を増やすことも検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の特性を考慮した担当職をキャリアパスとして設定した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は画一的でなく、各個人の不足している部分を補うメニューにしている。外部研修についてはオンラインやYouTubeを活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修ではよい刺激を受けているようだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室作りの際、慣れ親しんだものを持ち込んでいただくようにし、コミュニケーションの部分では特に積極的に関わる職員を設定してより早く人間関係を構築できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の現状を把握するため、ご家族から聞き取りをし、ご本人史や細かな要望を書き出していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人の生活の場を訪問することで、課題を見つけることができ、支援の導入部になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あんしん苑での「自分の役」を見つけていただき、それを維持できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診対応など、ご家族にも役割があることを入居時に了承していただく。また、受診に至る経緯を把握していただくためにも日ごろの情報提供は密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長くかかりつけの医師との信頼関係あれば、受診を継続していただきたいとお願いしている。	コロナ禍、利用者が穏やかに明るく暮らせるよう職員は親身な支援を心がけ、馴染みの関係ができています。家族とは、ガラス越しの面会やLINEを導入して利用者の日常をリアルタイムで家族に送信できるようになっており、アンケートでも細やかな配慮に感謝されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行、人柄、症状を考慮して食事席を組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りさせていただいた方のご家族と年賀状のやり取りなど続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース担当を設置し、なじみの関係を構築している。	一人ひとりの思いを尊重した、「今何をしたい」かその時の思いに添えるよう、傾聴に努めている。自由で、その人のできることに着目した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の場への訪問、ご家族からの聞き取りに加えて、利用していたサービスがあれば情報提供を受け、生活の全体像を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の現状を把握するために、個別の担当を設置し、細かな観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは手紙、メール、LINEなど使いコミュニケーションを密にとっている。 また、担当医とも長いお付き合いになっており、意思疎通が図れている。	担当制を設け、利用者の日常の何気ない会話や行動を記録し、現状の把握に努めている。それを基に、担当者会議で一人ひとりの目標を定め、本人・家族の希望に沿った介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の収集、共有をケース担当中心に行い、気づきの点なども記録物で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者本人はもちろん、状況によってはその配偶者、ご家族のケアも重要視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで交流していた方が、さらに地域の専門職の方を紹介していただき、庭木の手入れなども協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係性のできている、従来のかかりつけ医がある場合は入居後も受診を継続していただけるようにご家族に打診している。	かかりつけ医の選択は、本人家族の希望に沿っている。外来診察には職員が付き添っている。24時間対応を含め協力医療機関の医師の診察、歯科医、理学療養士の受診ができる。訪問看護師の健康チェック情報は主治医と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	長く固定の看護師が訪問していることで、日常の微細な変化への気づきがあり、入居者自身も安心しておられるようで、ご自分で痛みの相談などされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一日でも早く退院させてほしい旨を入院時にお伝えし、パンフレットの持参などで、今後の連携ができるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の入居者家族とは毎日コミュニケーションをとり、家族のケアにも重点を置いている。	終末期の希望については介護計画更新の時に、本人と話し合い、本人の意向を家族に伝え共有している。看取り支援は、3名の方が対象だったが家族から「最後をこのホームで過ごせて良かった」と感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を順に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は職員配置の少ない夜間を想定して行うことで、実践方式で、コンパクトに何回も実施できている。	夜間想定で、都度出火場所を変えて緊張感を持った訓練を行っている。新型コロナ対策は、予防対策をマニュアル化し、毎日のバイタルチェックの確認、清潔・消毒の強化を徹底し全員のワクチン接種と必要に応じPCR検査を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け向上委員会を設置し、相互指摘ができるよう活動している。	利用者との会話は優しく丁寧な言葉遣いで、ホーム全体を穏やかにしている。「声掛け向上委員会」で振り返り、スピーチロックによる拘束に注意し、否定的な言葉を使用しない、寄り添う支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、ご本人の希望や意思を知り、認知症だからと職員が決めることのないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの様子を見ながらお誘いや声掛けをしているので、団体行動はあまりなく、個人、または少人数での行動が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みで在宅時に揃えられた衣類を持ち込んでいただいたり、ご入居後に職員と買いに出かける方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳は入居者の方中心に行っており、冷蔵庫にはそれぞれのお好きなご飯のお供など入っている。	職員手作りの食事は自分専用の食器を使っている。家庭菜園の旬の野菜が食卓に上がり、自分の好きな箸休めや嗜好品が冷蔵庫に入っている。お正月は利用者と一緒に「おせち」をつくり祝っている。できる方は配膳・下膳、食器洗いを積極的に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間を固定せず、各自のペースで召し上がっているため、食事介助や見守りにもゆとりがある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事時間が同時ではないので、口腔ケアの漏れがないように気をつけている。 また、訪問歯科診療による無料検診の活用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本当に必要なものなのか、情性でないか、職員の都合ではないのか、アセスメントのたびに見直しを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の自尊心・羞恥心を踏まえた支援を心掛けている。先回りした支援でなく、利用者の意思と自立を考慮するよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合うタイプの下剤を検討したり、水分摂取量に配慮するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴したい方、夕方、夜に入浴したい方といらっしゃるため、お誘いのタイミングに配慮している。	生活リズムや本人の希望を叶えた入浴時間帯を、提供している。シャンプーやリンスも好みで用意している。バイタルチェックや体の状態を観察し職員とのコミュニケーションの場ともなっている。季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝早起きの方、夜更かししてゆっくり起きたい方、体力がなく、長時間まとめて眠れない方などいらっしゃるため、ひとくくりの消灯時間などは設定していない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師とのコミュニケーションで、より服薬しやすいもの、工夫など勉強させてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きなこと、得意なことを活かして役割としてお願いしている。(庭木の手入れ、家事、人のお世話など)ご本人も自分の役としてとらえてくださっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出先の制限が多く、散歩がメインになっている。散歩のたびに報告しているわけではないので、ご家族への発信に力を入れなくてはいけないと考えている。	コロナ禍の中、外出や買い物は自粛が続いているが、周りの自然豊かな公園、住宅地の散歩など職員と個々に楽しんでいる。家族アンケートでも、コロナ終息後や誕生日の外出・外食を望む声が多く聞かれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾があれば、なくす可能性があっても上限を決めて所持していただく。そのほうが落ち着いて生活されることも多くある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。 ホームの電話はいつでも利用でき、ご家族と長電話を楽しんでおられる方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花の先生だった方に玄関のお花を活けていただく。 ご本人も自分の役割として喜んでくださる。	リビング、廊下・居間等共有の空間は掃除が行き届き、季節に応じた飾り物や写真が掲示されている。玄関には利用者の生ける季節の花がいつも飾られている。コロナ感染予防は、ホーム内の清掃、手すりの消毒、換気を利用者も一緒に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりや、玄関先にベンチを設置している。 気の合う方同士、内緒話や日向ぼっこなどされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお部屋を再現していただくようにご家族にご協力いただいている。 女性ではお仏壇の持ち込みも多い。	清潔で落ち着いた居室は、利用者の思いでの品が持ち込まれ、安心して過ごせる自分の家になっている。仏壇を持ち込んでいる方も多く、心の安寧につながっている。出来ることを役割として、部屋の清掃や消毒など職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが自由にあとから設置できるように、壁には下地が入っている他、台所はシステムキッチンの足を切って市販のものより10センチ低くしてある。高齢女性には使いやすい高さになっている。		